

**久留米広域連携中枢都市圏  
令和2年度 ビジョン懇談会 全体会 議事録  
(書面会議)**

(1) 開催期間：令和2年7月28日(火)～8月11日(火)

(2) ビジョン懇談会委員

座長：世利洋介委員

副座長：新井真実委員

委員：原文雄委員、黒沼清寿委員、諸岡佳紀委員、穴見英三委員、赤尾哲之委員、森山有希子委員、古賀亮史、緒方博子委員、小田好一委員、鯉谷彰委員、緒方信州委員、高橋英二委員、神代眞澄委員、前田浩之委員、吉岡マサヨ委員、北島克彦委員、船津將義委員、岡本卓也委員、高木亜希子委員、有馬彰博委員、飯野直美委員

(3) 次第及び議事：

<b>項目(1) 次期久留米広域連携中枢都市圏ビジョン策定スケジュールの変更について</b>
意見なし
<b>項目(2) ビジョン懇談会委員の任期の延長について</b>
意見なし
<b>項目(3) 令和元年度事業実績・決算及び令和2年度事業計画・予算について</b>
<p>○新産業団地整備事業において、R1 事業実績で、R2.6月の分譲地引渡しとあり、売却の進捗を期待したい。</p> <p>○今後の観光ニーズの変容とマッチする支援の在り方を調整、重点化していく必要があるように思われる。</p> <p>○診療情報共有化事業について、R1 実績と R2 計画で、参加医療機関等の具体的な数値を挙げてもよろしかったのではと思われる。</p> <p>○ICT 推進研究会では、with コロナを想定して、適用業務を広げて、また事務事業の連携を促す取組みの提言を期待する。</p> <p>○ファミリーサポートセンター事業、一時預かり事業、地域振興促進事業、地域おこし協力隊の連携事業については、事業費以外の実績値の掲載も必要ではと思われる。</p> <p>○観光サイクル事業について、R2 年度予算は0となっているが、どのような事業を考えているか。</p> <p>○コロナの影響により、取組みが中断されている事業も多く、予算も余るのではと思われる。今年度はコロナ対策費も必要でしょうし、予算の見直し(減額)を行うのであれば、またその内容を報告していただければと思う。</p> <p>○5年の間に内容が大きく見直されている事業も多く、またコロナや災害等への対応が盛り込めると良いのではないかと？ネット環境の整備なども入れてほしい。次期計画への今期の課題が生かせるよう進めてほしい。</p> <p>○アンテナショップの後継事業として、久留米圏域の地域性を表し、知名度向上に繋がるような、ふるさと納税事業の返礼品開発(例えば、久留米旨かもん定期便として、圏域産ら一麦使用の久留米ラーメン、久留米焼き鳥、きのこもつ鍋、季節のフルーツ等圏域の特産品を定期的に送付など)に是非取り組んでいただき、圏域全体の共通返礼品として取り扱っていただけるよう(圏域で協定締</p>

結することで可能) 検討いただけないか。

#### 項目(4) 成果指標について

○新型コロナ感染症予防の影響を受け、進捗や評価が向上しなかった事業が確認できる。今後もコロナ禍の影響が長引くことを想定して、代替的な方策とそれに伴う成果指標について検討することも視野に入れておく必要があるように思われる。

○成果指標については、おおむね達成されているので問題ないと思うが、例えば、達成度の低い見本市での商談件数や美術鑑賞事業における事業に参加した件数など、コロナの影響だけではなく、何か目標達成に向けた戦略があるのかどうかを重要と考えるが、その方策等についてできる範囲で開示いただければと思う。

#### 項目(5) 久留米広域連携中枢都市圏ビジョンの改訂について

○コロナ禍の多大な影響に対する新たな対策を講ずる必要があると考える。

○戦略的な観光の推進の成果指標については、新型コロナウイルス感染症の影響がないと仮定した値として当初の数値のままになっているが、感染症の影響を大きく受けられるものについては、再検討すべきではないか。

○前記項目をご検討いただき、反映できるものがあればお願いしたい。

#### 全体意見

○今後のビジョン策定に向けて、目標値としている圏域人口について、事業効果に関連させた分析がいずれ必要になるかと思う。自然動態・社会動態、年齢別での分析に加え、いずれの事業が効果的であったのか否か、また、圏域レベルと市町レベルでの成果等を検討していくことが望ましいかと思われる。

○先に小分科会を実施していただいたが、提案された事項等について、何かフォローされる必要はないか。座長による整理をたたき台にして、懇談会からの提言(下記)としてまとめることも望ましいかと思われる。

○次期ビジョン策定に繋げるため、懇談会からの提言として、ビジョン事業に対する総合的な評価、意見等を取りまとめることも検討されてよろしいのではと思われる。

○コロナの影響は甚大で、しかも一過性ではなく、あらゆる分野において変化が求められていると思う。広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会のメンバーとして何を構想できるか、考え続けていきたいと思う。

○成果指標からすると進捗度 A 評価が 25 件中 12 件となっており、ややもの足りない感じを受ける。

○また、この結果から久留米広域連携地域が強みにできる事業分野(地域産業の育成、高度な医療サービスの提供、地域医療、子育て支援、地域公共交通)が明らかになった。

○今後、強みをさらに磨き上げることに人と予算を集中させることが必要かと思う。

○一方、広域連携の利点や成果がうまく説明できていないように思われる。今後、広域連携のモデルケースや成功事例を作ることが必要かと思う。

○コロナ禍において、会議の開催が難しいところもあるが、Zoom を活用したりリモート会議なども検討できないか

○コロナと共存してく世の中になり、観光・インバウンド推進事業など、やり方、考え方を変えていく必要があるかと思う。(ワクチンが安定するまでにはまだまだ時間がかかる。) また、アンテナショップ事業は昨年度で終了となってしまったが、コロナの影響で逆に都外へ行きづらくなって

いく中、地方の特産等が重宝されていくのではと思った。

○地域公共交通について、まとめとしては圏域で良いと思うが、実際利用者の推移や必要な対策は、西鉄（大牟田線、甘木線）、JR（鹿児島本線、久大本線、新幹線）で大きく異なる。この中枢都市圏ビジョンからある程度の規模をもった個別具体的な事業（駅周辺開発、新駅、鉄道とバスの連携、駅のIT化等）につながる取組みができればと思う。

○コロナ対応や災害時の広域連携について、次期計画策定の際は、防災の広域連携を取り組んでほしい。

○各事業の実施やビジョンの改訂にあたっては、今後とも、県に対して情報提供をいただくとともに、必要に応じて、調整や連携にご協力いただければと思う。